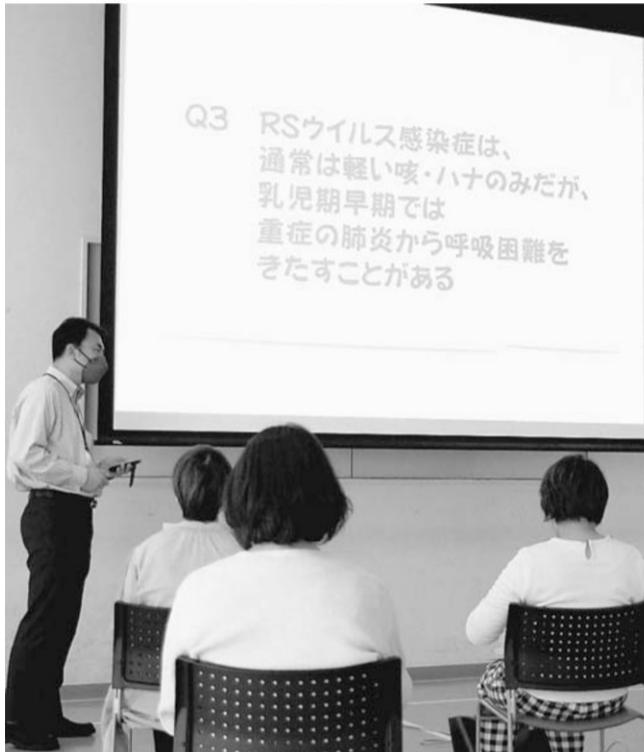


乳幼児の感染症と予防について解説した健康教室  
(京都市中京区・京あんしんこども館)



Q3 RSウイルス感染症は、通常は軽い咳・ハナのみだが、乳児期早期では重症の肺炎から呼吸困難をきたすことがある

## 乳幼児感染症 予防に手洗い大切

乳幼児の感染症について学ぶ健康教室が京都市中京区の「京あんしんこども館(京都市子ども保健医療相談・事故防止センター)」で開かれ、京都第一赤十字病院小児科の加納原部長が感染症の種類と症状、予防について保護者や保育者らに解説した。(稻庭篤)

子どもの感染症の多くはウイルスによるもの。生後3カ月までは母から引き継いだ免疫が働き、発症は少ないが、重症になりやすい。

4カ月から3歳まではいろいろな病原体に感染しながら免疫の力を獲得していく時期で、「保育園でしおりう風邪をひくのはそのため」という。

乳幼児が感染するウイルスは、いわゆる風邪の旧型コロナウイルス▽新型コロナウイルス▽気管支炎や肺炎などを手足口病などのラノウイルス、エンテロウイルス▽ブール熱やへんじんなどのアデノウイルス

▽インフルエンザA・B▽風邪や気管支炎の原因のパラインフルエンザなどが

ある。

ぜんそく防ぐ可能性も

### 緊急受診目安「PAT法」参考に

**【外観】**  
お=落ち着き(異常に興奮していないか)  
は=反応(呼びかけに応じるか)  
な=泣き声(発語、しっかり声が出るか)  
し=視線(目の焦点が合っているか)  
き=筋緊張(異常にだらんとしていないか)  
**【呼吸】**  
い=息苦しさ(努力呼吸がないか)  
**【循環】**  
て=手の色(皮膚循環は正常か)

**【呼吸】**  
RSウイルスは鼻水やせき、発熱などの風邪の症状で始まり、多くは1~2週間で治まるが、生後6カ月未満や早産児、肺や心臓に疾患のある乳児は「重症の肺炎から呼吸困難をきたすことがあります。注意が必要」とあります。RSウイルスは飛沫(せき、くしゃみなど)と接触による感染なので、手洗いが予防に有効。

**【循環】**  
RSウイルスやライノウイルス、パラインフルエン

ザウイルスなどはぜんそくの原因としても近年注目されており、手洗いでぜんそくが予防できる可能性があるという。

覚えるチェック項目で、でも参考になる」という。

一方、血便を引き起こす

のが、カンピロバクター、

サルモネラ、病原性大腸菌

などの細菌や、ノロウイル

ス、ロタウイルスなど。食

品の十分な加熱や手洗いが

大切。ロタウイルスは脱水

になりやすく、重症化に注

意が必要という。

熱性けいれんについても

説明。発作型全身型(自

我)を

ぱりガクガクする)で発熱

初日の発症で、数分で止ま

り、意識回復が良好であ

れば後遺症の心配はない。5

分様子を見て治まりそう

なれば受診が必要とし

た。

むき泡を吹いて手足を突つ

て、

呼吸障害について「肋骨

浮き上がる」こと。

が浮き上がるような呼吸を

していれば、せきがひどく

なったと考える」と説明。

気道が狭くなると横隔膜の

筋肉以外も使う「努力呼吸

」となり、肋骨の筋肉を使つ

たり、鼻を広げたり、弱い

うなり声を上げたりする。

努力呼吸や「少し動くとひ

どくなる」「食べない・飲ま

ない・えずく」「眠れない」「

しゃべれない」などの症状

があれば「早めに受診を

とアドバイスした。

小児科医が重症度を判断

する「PAT法」についても

説明、「おはなし」と